

「イスラエル建国史」

19 シオニズムを前進 させた3人のユダヤ人

ユダヤ・中東研究家 滝川 義人



滝川 義人
Takigawa Yoshito

1937 年長崎県生まれ。
早稲田大学第一文学部卒
業。イスラエル大使館チー

フ・インフォメーション・オフィサー（1968
～ 2004）として勤務。

現在、MEMRI（メモリ、中東報道研究機関）
日本代表。ユダヤ、中東研究者。

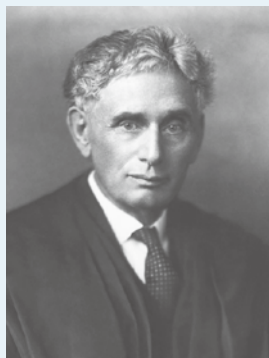
主要著書：『ユダヤ解説のキーワード』（新
潮社）、『ユダヤを知る事典』（東京堂出版）
など多数。

◆ 1913年に開催された第11回シオニスト kongress では、ヘルツェルの推進した
外交中心の政治シオニズムが後退し、パレスチナの地に実際に移住して経済基盤を築
く実践シオニズムが主流になった。しかし、第一次世界大戦の勃発で、実践シオニズ
ムは実現不可能になり、シオニズム運動は後退するかに見えた。しかし、運動は停滞
せず、この時期に飛躍的に発展するのである。

第一次世界大戦時、シオニズム運
動は、大方の予想に反し、3人のユ
ダヤ人によって大いに発展した。ひと
りはアメリカのブランダイス、次がロシア
出身のヤボチンスキー（ジャボチンス
キー）、そしてイギリスのワイツマンであ
る。

シオニズム運動をアメリカ社会 に定着させたブランダイス

ブランダイスは、
ハーバード大学法学
部を開校以来の優秀
な成績で卒業し、法
律事務所を開設し
た。やがて巨大企業
の権益を向うにまわ
して、消費者や低賃
金労働者のために戦う
“人民弁護士”として
知られるようになる。



ルイス・D・ブランダイス

しかし、ブランダイスは50代半ばに
なるまで、アメリカのユダヤ人社会との
つながりを持っていなかった。両親は
ボヘミア出身で、1848年にアメリカへ
移住している。祖父、曾祖父は、フラ
ンキスト（ヤコブ・フランクが18世紀中
頃に起こした偽メシア運動）の信者で
あった。しかしブランダイス本人は、ユ
ダヤ教色の濃厚な環境で育ったわけ
ではない。ユダヤ人社会と直接かか
わりを持つようになったのは1911年。
ニューヨークで発生した繊維産業の労
働争議が、きっかけである。調停役と

して働いた時、ブランダイスは、
繊維産業が労使共にほとんど
全員が東欧出身のユダヤ人であ
ることを知った。

ブランダイスは、労使双方の
ユダヤ人達が、ユダヤ教の伝
統を身につけ、論理的に物事
を考え、しっかりした主張の
できる人々であることに気付い
た。そして、東欧のユダヤ人
が苦しい状況下にあ
ることを知るのである。

1912年の選挙で大統領
になった、改革派のウッド
ロー・ウィルソンは、社会派
弁護士としてアメリカ国内で広
く知られているブラ
ンダイスを、アドバ
イザーのひとりを選
んだ。前出のよう
に、ブランダイスは

シオニスト全体会議暫定執
行委員長（1914～1918）に
選出され、アメリカの大統領
は、本人を通してシオニズム
運動の動向を知るようになった。イギリス外務省もブラン
ダイスに意見を求めるようになる。ブラ
ンダイスは連邦最高裁陪席判事（1916
～ 1939）としての立場もあり、公務上
の立場から表面に出ることはなかった
が、裏方から支え、暫定執行委員会
を物心共に強力なシオニズム推進運
動体で育てあげた。



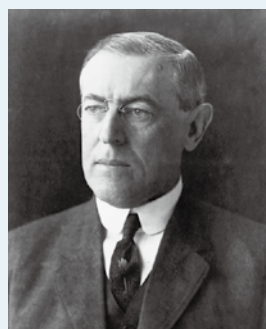
ヤボチンスキー

もそもシオニズム運
動に反対であった。
民主主義の進んだイ
ギリスは、対ユダヤ
環境がほかの国に
比べて比較的良好
であり、民族としての
アイデンティティでは
なくユダヤ教徒とし
て生きる限り、何の
不都合もないと考え
た。ましてや、ユダヤ人

だけの部隊をつくるのは、全く意味が
ない。兵隊になりたいのなら、英軍に
志願すればよい、と彼らは考えた。

ユダヤ人社会からシオニズム運動の
“権威者”として扱われている人達の

反発は、もっと強かつ
た。著名シオニストの
ラビ・サムエル・ダイ
チェス博士は、1917
年8月17日付 ジュー
イッシュ・クロニクル紙
に投書し、部隊編成
を「百害あって一利な
し。悲劇的愚行」と
非難した。



ウッドロー・ウィルソン

反対するロスチャイルド家の 軍人達

ドイツのフランクフルト・アムメインを
発祥の地とするロスチャイルド家は、当
主のマイヤー・アムシェルの息子5人
がそれぞれ独立して、事業を発展させ
た。そのうち現在まで続いているのは、

英仏の2家系だけである。

第一次世界大戦では、この2家系から3人が英軍将校として、パレスチナで戦った。ひとり、フランス家系のジェームス・ロスチャイルド(1878～1957)。パレスチナのユダヤ人開拓村を支援した慈善事業家エドモンドの次男で、イギリスに帰化し陸軍少佐となった。

イギリス家系では、レオポルド(1845～1917)の3人の息子が共に軍籍にあったが、長男ライオネル・ネイサン(1882～1942)は家督を継ぐため国内勤務を許され、次男イブリン・アキル(1886～1917)、三男アンソニー・グスタフ(1887～1961)、そして従兄弟のネイル・プリムローズ(1882～1917)が出征した。このうちアンソニーはガリポリ戦で重傷を負って後送されている。パレスチナへ派遣されたのは、ジェームス少佐とイブリン少佐、そしてネイル大尉である。

ロスチャイルド家の軍人達は大英帝国の将校であり、こぞユダヤ人だけの部隊編成に反対であった。ジェームス少佐は、ワイツマンとヤボチンスキーを前にして反対論を展開して、ヤボチンスキーと言い争い、2人は怒鳴り合った。ジェームスが「忘れるな。私は君より階級が上だ。上官侮辱でいつでも軍法会議にかけることができるのだ。よく覚えておきたまえ」と怒鳴ると、ヤボチンスキーは「軍法会議にかけんならかけろ。なるほど階級ならなら君が上だ。しかし、ユダヤ軍団ではそうはならない。私は大將になるのだ」と言い返した。つかみ合いになりそうになって、ワイツマンが間に入り、2人を引き離さなければならなかった。

アメリー次官の支援

1917年1月末になって、アメリーがヤボチンスキーに、ロイド・ジョージ首相宛に建白書をだせ、自分が直接首相に手渡し、根まわしをする、と言った。アメリーはシオニズムを理解していただけではなく、パレスチナにおけるユダヤ人の

ナショナルホームは、大英帝国の持駒になる、と考えていた。当時、次官級の地位であったが、その後植民地担当国務大臣や海軍大臣になった政界の大物である。ヤボチンスキーの書いた原文をアメリーが手直して、トルンペルドールとの連名で正式の文書にした。

回答はなかなか来なかった。待ちに待った返事がアメリーから来たのは、4月13日である。慎重な表現ながら、進展があったという知らせである。数日後ヤボチンスキーは陸軍省編成局から、ダービー陸軍大臣による意見聴取があるので、陸軍省においでを乞うという連絡をうけた。二人は陸軍大臣に、滔々^{とうとう}と持論を開陳し、兵員数万の部隊でも編成できる、ユダヤ人部隊は大英帝国に対し多大なる貢献をするであろうと述べた。

1917年7月27日、ジョン・ヘンリー・パターソン中佐は、陸軍省に出頭するように命じられた。出頭先の編成局長R・ハッチンソン少将は、パターソンにユダヤ旅団の編成を命じ、「聞くとところによると、ヤボチンスキー軍曹というのが、気が利いていて役に立つらしい。本人を使ったらどうか」と言った。

ユダヤ人部隊の編成は、1917年8月23日付官報(London Gazette)で正式に発表された。ユダヤ人部隊の編成が公式に認められたのである。「ユダヤ人社会は武装し、パレスチナ解放のパートナーにならなければならない」

というワイツマンの主張を

実践する時が来たのである。しかし、トルンペルドールはイギリスにいなかった。1917年の3月革命はロシアでの軍団編成の好機と考え、ロシアに戻っていた。

1週間後の8月30日、ジェームス・ロスチャイルド少佐とエドウィン・サムエル(ロード・モンタギュー 1879～1920)がダービー陸軍大臣の許へ抗議に押しかけ、軍団編成の撤回を強く求めた。モンタギューは当時ロスチャイルド家と並ぶ有力な家で、本人は軍需大臣の要職にあり、ユダヤ民族主義反対の急先鋒だった。ダービー大臣はすでに官報で告示されているので、変更できないとつっぱね、部隊にユダヤの名称をつけず、派遣先はパレスチナではなくドイツ正面にする、と妥協案を示した。それを聞きつけたアメリー次官補とワイツマンが直ちに抗議する騒ぎになった。

第38大隊の誕生

結局ユダヤ人部隊は、フュージャリア連隊の第38大隊として編成されることになった。

ヤボチンスキーは同僚2名と共に第20大隊から徴兵局へ異動になり、募集活動を開始した。一方、パターソンは、プリマスの軍基地で新兵の訓練にあたっていたが、いよいよユダヤ人部隊の第38大隊

(定数800)の編成完結の日がきた。

1918年2月4日、軍楽隊を伴って第38大隊がロンドン市中を行進した。乗馬姿のパターソン大佐を先頭に、着剣小銃を肩にした隊員が続く。あれ

ほど反対したユダヤ人大衆やシオニスト指導者が、胸をはり真直ぐ正面を向いて行進する隊員の雄姿に涙を流した。抑圧された民族の心に触れるものがあつたのだ。大隊は、市長公邸(マンションハウス)の前を通る時、正門に立つ正装した市長とライ

オネル少佐に威儀を正して敬礼し、挙手する少佐は、誇らかな表情で見送った。その後北米のユダヤ人を対象にした第39大隊(定員2000)、パレスチナのユダヤ人のための第40大隊(同1700)が編成される。



パターソン中佐



アメリー次官